

ゴロウ、コガタノゲンゴロウ、ヤエヤマノコギリクワガタ、ヤエヤマミツギリゾウムシ、ナガオオズアリ)、甲殻類4種(オカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニ)、貝類8(ヤエヤマアツブタガイ、ヤエヤマヒラセアツブタガイ、ホラアナゴマオカチグサガイ、ノミガイ、スタアンズギセル、ヨワノミギセル、イッシキマイマイ、クロイワヒダリマキマイマイ)、クモ類1種(イシガキキムラグモ)の27種である。これら27種の確認地点を図-6.9.2(2)~図-6.9.2(28)に示す。なお、昆虫類のマサキルリモントンボ及びコナカハグロトンボについては成虫も確認されているが、移動能力が大きいこと、段階的に造成を行うことなどから、造成工事による生息個体の消失はないものと予測される。

鳥類については前述のとおり、成鳥の移動能力は高いため個体の消失はないと考えられる。しかし、ズグロミソゴイについては図-6.9.2(29)に示すとおり、空港施設予定地内及び航空障害灯予定地内において営巣が確認されており、卵及び幼鳥期の場合には移動能力が低いか、ほとんどないため、生息個体が消失するおそれがある。

リュウキュウツミについても図-6.9.2(30)に示すとおり、航空障害灯予定地内において営巣が確認されており、卵及び幼鳥期の場合には移動能力が低いかほとんどないため、改変区域内の生息個体が消失するおそれがある。

#### イ) 個体の消失により個体群が存続できないおそれの程度

生息個体が消失することが予測される27種については、表-6.9.2(5)に示すとおり、種ごとに石垣島での分布状況、生息状況などを推定し、改変区域内の生息個体が消失することにより事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれの程度について検討を行った。

検討の結果、改変区域内の生息個体が消失することにより事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれがあると考えられる種は爬虫類2種(セマルハコガメ、サキシマアオヘビ)、昆虫類4種(ヤエヤマクビナガハンミョウ、コガタノゲンゴロウ、ヤエヤマミツギリゾウムシ、ナガオオズアリ)、陸産貝類5種(ヤエヤマアツブタガイ、ヤエヤマヒラセアツブタガイ、ホラアナゴマオカチグサガイ、ノミガイ、ヨワノミギセル)の11種であると予測される。